

番号 11 勤務校 宜野湾市立大謝名小学校 氏名 仲村渠 梨己

グループメンバー 野口桂子 (鏡が丘養護学校), 大城奈美江 (久高小学校)



彫り：大城奈美江 刷り：大城奈美江

奈美江さんの彫りは、彗星の軌跡のようにも雨粒が伝う草のようにも見えた。次に彫るのは私なので、上記どちらかのイメージで掘り進めるか、また、全く違った抽象的なデザインとして掘り進めるか迷った。

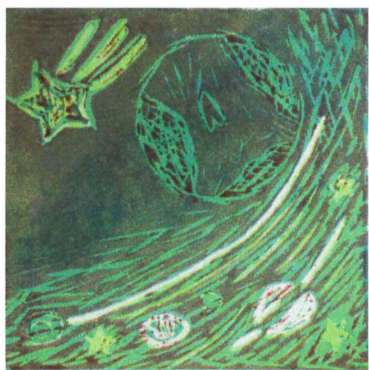
角刀で彫った細い線と丸刀で彫った柔らかな線のコントラストと地の色の爽やかなライトグリーンが、更にイメージを膨らませた。



彫り：仲村渠梨己 刷り：仲村渠梨己

空のイメージ、水のイメージ、両方を残したくて、「流れ星と流れる川に映る星空」をテーマに彫り進めてみた。一方、第一印象にあった彗星のイメージも捨て難かったので、中心部は彫らずに残し、次の桂子さんの想像に委ねることにした。

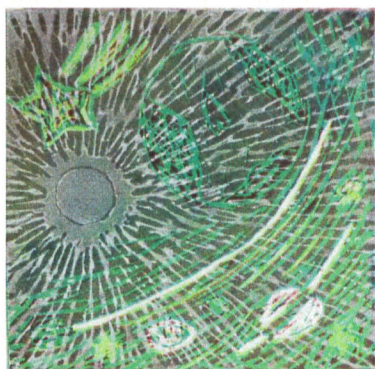
刷りでは、水色と青色を混色し、深みを持たせたかったので中心部は青色を濃くした。また、流れる感じを出したかったので水で少し滲ませ筆を滑らせたところ、概ね期待通りの雰囲気が出た。



彫り：野口桂子 刷り：仲村渠梨己

桂子さんの彫りで一気に宇宙が広がった。地球(?)の中心にハート型があり、桂子さんらしいなあと思うと共に、私の見ていた版の向きと上下反転していることに、この教材の面白さを感じた。

宇宙のイメージが固まったので、赤色で刷り、背景を紫色に寄せたいと考えた。背景のことに気を取られていたので、地球(?)の彫り残し部分が茶色っぽくなったのは予想外であったが、彫られている方のグリーンが映えたので結果として良かったと思う。



彫り：大城奈美江 刷り：仲村渠梨己

奈美江さんの思い切った彫りが印象的だったので、それが活きる色は何色かとても迷ったが、4版目ということで色が重なる不安もあり、白色で刷ることにした。

他の作品を刷る際に、水が多くて滲んだ失敗があったが、今回は、それをヒントに少し緩めに絵具を溶いてみた。結果、飛沫のような効果が現れ、太陽(?)の光がすべてに降り注いでいるような、生命の源のような、壮大な印象になった。

番号 11 勤務校 宜野湾市立大謝名小学校 氏名 仲村渠 梨己

グループメンバー 野口桂子 (鏡が丘養護学校), 大城奈美江 (久高小学校)



彫り：仲村渠梨己 刷り：仲村渠梨己

よくある形だと、その形に意味を持たせることも、そこから波及してデザイン化することも可能だと思い、大好きなハート型にした。ハート=ピンクとすぐに思ったが、いかにもだなあ…と水色を準備。しかし、グループメンバーを見ると黄緑色・水色と、どちらも寒色だったので、結局、素直に暖色（ペールオレンジ+赤）を施した。

私が続きを彫るのなら、夢を見ている少女かティーカップを添えたいなど、具体的な絵が加わることをイメージしていた。



彫り：野口桂子 刷り：仲村渠梨己

桂子さんの彫りで、ハート型の周りの曲線と対角の放射の彫りが加わり、ハート型の柔らかそうなイメージが生きてきた。「下のよきによきは何だろう？」ジブリ映画のキャラクターにも見えて、次の彫りも楽しみになった。

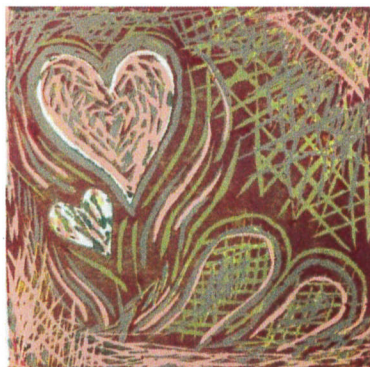
桂子さんの彫りで、ハート型が理想のピンク色で残り嬉しかった。そのピンク色が映えるといいなあと思い、暗めの色（緑+黒）で刷った。もう少し緑色が強くてよかったなあ…と思った。



彫り：大城奈美江 刷り：仲村渠梨己

ハート型の周りの曲線と対角の放射の彫りが更に加わり、「曲線と直線」の効果が際立ってきた。奈美江さんの彫りは、正直意外だった。それは、抽象的なイメージのまま繋いできたからである。ここでは、具体的な何かが加えられ、「絵」としての方向性が決まるだろうと勝手に思っていた。

2版目で暗くなりすぎた感があったので、レモン色で刷ってみるとイメージ通り、渋めの緑色が出てきた。



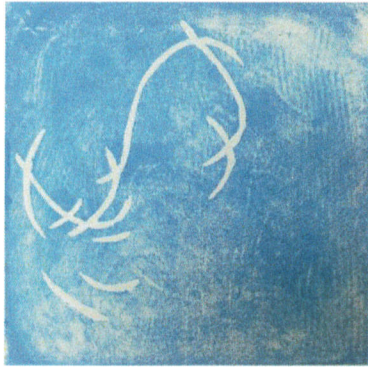
彫り：仲村渠梨己 刷り：仲村渠梨己

とても迷ったが、具体的な何かを加えるのではなく、これまでの彫りに乗っかることにした。彫りあがると、何かが生まれてくるかのような印象を受けたので、赤色で締めることにした。

刷り上がった作品から、「周りからエネルギーを受け、大地に生え育ち、成熟して世に放たれる」という循環をイメージした。それは、植物だけでなく、人のかかわりにも取れるなあと深読みしたり…。一人で彫っていたら絶対に作れない作品だけに、感慨深い。

番号 11 勤務校 宜野湾市立大謝名小学校 氏名 仲村渠 梨己

グループメンバー 野口桂子 (鏡が丘養護学校), 大城奈美江 (久高小学校)



彫り：野口桂子 刷り：野口桂子

果てしなくイメージが膨らむ彫りと色だと思った。

水色からイメージすると、海にも空にも見える。桂子さんは何かをイメージして彫ったのか、それとも、赴くままに彫ったのか…。見方によっては文字に見えなくもない。次に彫るのが私だったら、対照的に幾何学的な模様を加えるなあ…。次に彫る奈美江さんは、どう彫り進めるのだろう…。期待が膨らむ1版目であった。



彫り：大城奈美江 刷り：仲村渠梨己

奈美江さんの彫りは、水しぶきをイメージさせた。なので、地の水色が映えるようにと、2版目は赤色で刷ることにした。すると、背景は赤紫色になり、最初の彫りの曲線がより鮮明に浮き上がってきた。また、最初の水色の刷りむらが、紫色の濃淡や垣間見える赤色を生み、きれいな夕焼けのようでとても気に入った。

次に彫るのは私である。さて、どうしたものか…と、眺める時間が一番長かった作品である。



彫り：仲村渠梨己 刷り：仲村渠梨己

2つの絵が見えてきた。ひとつは、波しぶきをあげ水面に顔を出すクジラ。もうひとつは、巣の中の鳥である。少し悩んで後者にした。その方が、最初の曲線の柔らかさが生かせると思ったからである。そこで、右手の余白に雛鳥を加え、鳥の親子が仲睦まじくしている様子を描いてみた。

雛鳥のふわふわした感じを出したくて、白色を乗せてみたが、思うような色が出なかった。次の刷りで出るといいなあ…。



彫り：野口桂子 刷り：仲村渠梨己

桂子さんの彫りで、かわいい頬をした鳥が出てきた。

雛鳥の白色を絶対に出したいと思い、暗い色で配色を考えていた。真っ黒より、緑色を混ぜた方が自然の中の様子に見えるかなと思い、この配色にしたが、正解だったと思う。また、背景の雲がたまたま赤みの強い場所だったので、夕焼け雲のようになった。

抽象画になると思っていた作品だが、仕上がると、夕暮れの親子鳥となった。